

本草圖譜卷之九十五目錄

苞水類

一種	一種	鳳尾竹 解集	一種	一種	一種
		ふんぶく	奥山竹	何ぞ	たひし
上	九	七	五	三	一
一種	一種	一種	一種	一種	一 筍竹 解集
		金糸竹	たかたけ	通絲竹	やたけ
		ふんぶく			
十三	十		六	四	二

本草圖譜
卷之九十五
十六
洲國院



本草図譜
卷之九十五
目録

東家雞棲木
廁籌録附
震燒木

右廁木
右欄板
河邊木

一種
一種
一種
一種
一種
仙入杖
雜木類
淮水

龍絲竹解集
暴節竹解集
一種
一種
一種
一種
一種
鬼齒
天竹黃
城東腐木

本草圖譜
卷之九十五
目録



本草図譜卷之九十五

苞木類

東	男	門
都	人	
岩	岩	小
崎	崎	山
常	信	廣
正	正	孝
著		校

本草図譜卷之九十五



山中又原野堤小
 多人向根水中
 小向くこく内竹の
 形軟く少くして直下
 節の大きき節の間長
 さもの二尺余不及不
 葉ハ若竹より厚く
 下より初生ハ白き粉
 を生じ此竹諸の器
 物に造る用サ一種此
 物より細きものを云
 のれけと云又器物に
 造らる



一種
 あたけ
 ふいたけ
 かとたけ



本草図説

卷之六



本草図譜
卷之九

本草図譜
卷之九

竹の形のれけふ似て
細く肉厚く節むく
、竹節の間二尺許り
葉の形又のれけふ似
て天く右子く葉竹サレ
矢を造らうろく

笠間竹
の
鉤
や
たり



本草図譜
卷之九十一



竹の形筍前竹小似と細く
節高く質軟なり
折也長一葉も小く短し



一種
ねり

本草図譜
卷之九十一



本草図譜
卷之八



竹の形矢竹に似
て細く葉の形迎
葉竹に似て下葉
せは上小向なり



一種

通絲竹

本草図譜
卷之八





一種 寒山竹

竹の形やたけ小
 似て細く直小
 葉末不多々
 生り形又たれり
 小似て至る直

本草図譜

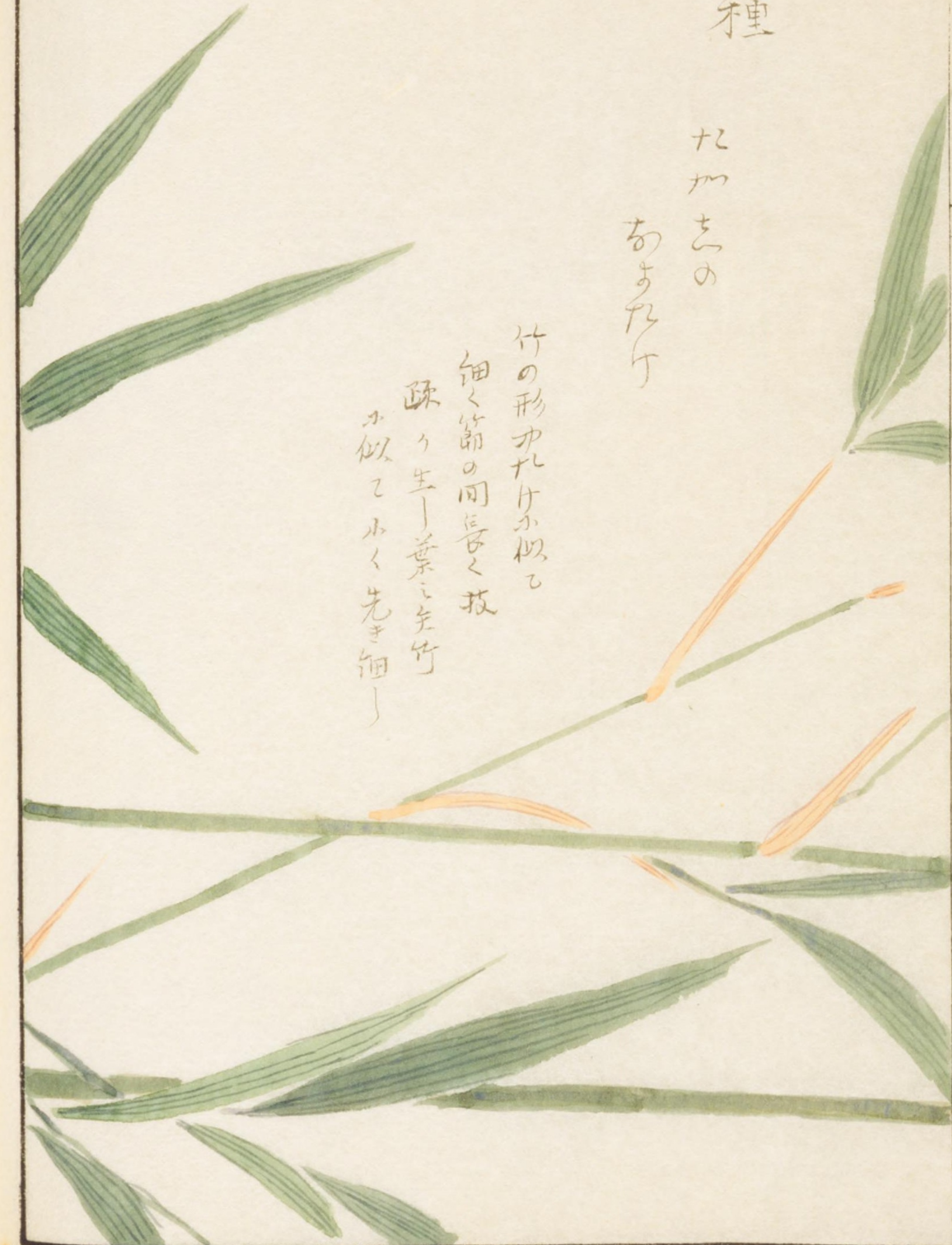
卷之九十五

五



本草図譜
卷之六十一

本草図譜
卷之六十一



一種

九加志の

あまなりけ

竹の形かれけ不似て
細く節の同長く扱
疎う生し葉は生竹
に似て小く先細し

六



本草図譜

本草図譜 卷之九

人家又盆種ヤリノ玩賞凡
竹の形カナリト似テ且上ノ細
く庭際ニ栽ルモノハ高マ
五六尺小盆ニ栽テ物ハ五寸
不至ノ葉短シト形極ノ前
の附不似たり夏月土月ノ筍
を生じル也土用ニケトイフ



鳳凰竹花

土用はけ

きやんわうちく

さんちやうたけ

こぎんちく

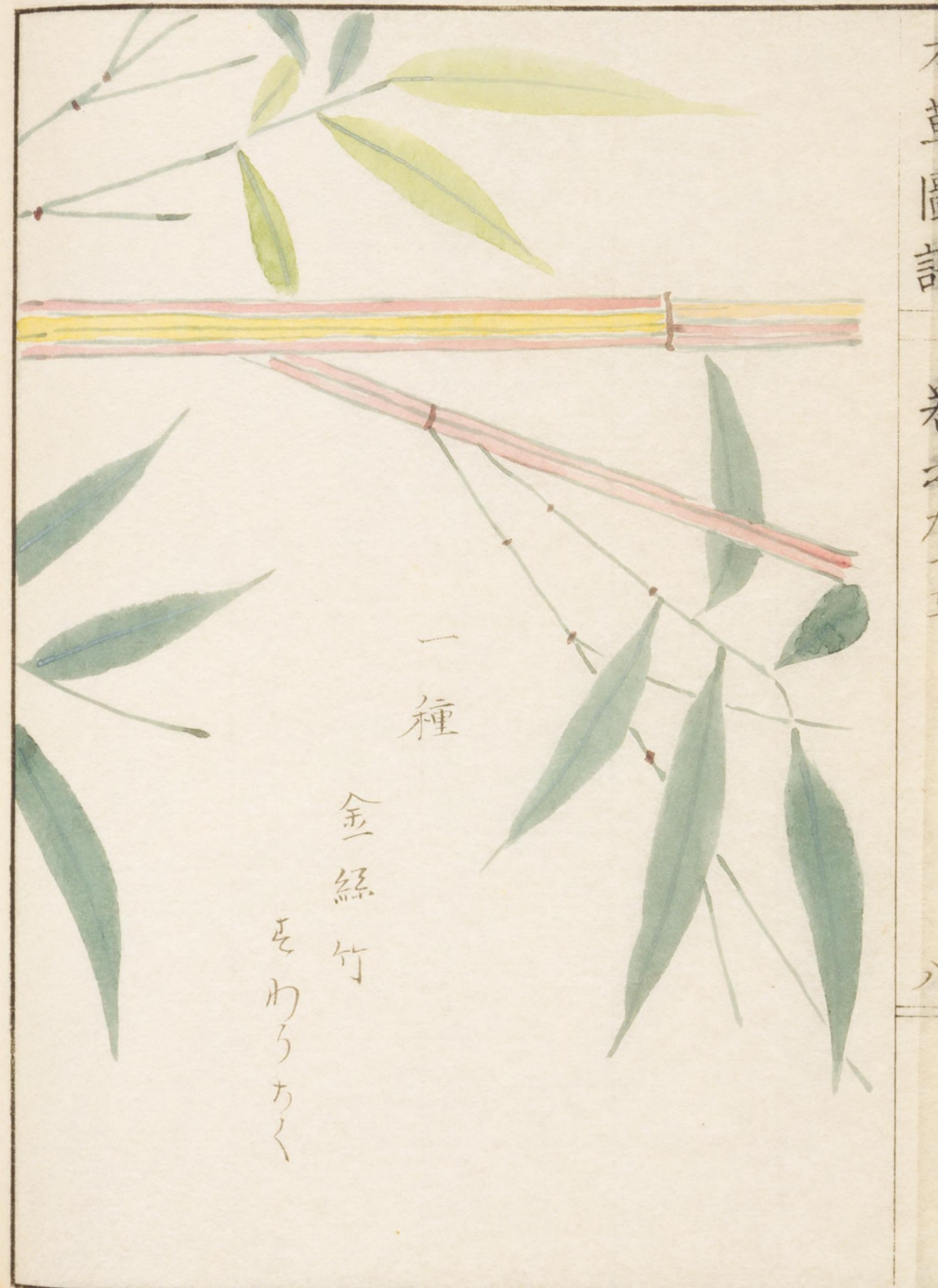
薩

福

鳳尾竹解集



本草
圖譜
卷之九十一



本草
圖譜
卷之九十一



本草
図譜

卷之九十九



本草
図譜

卷之九十九



本草図譜



蝦夷の産ありと云へり
竹の形の尺許小似て細く
高さ五六尺初生ハ青く
二十許して紫色の斑あり
葉の形若かり長八九
寸幅三寸許此竹にて
煙管を造り

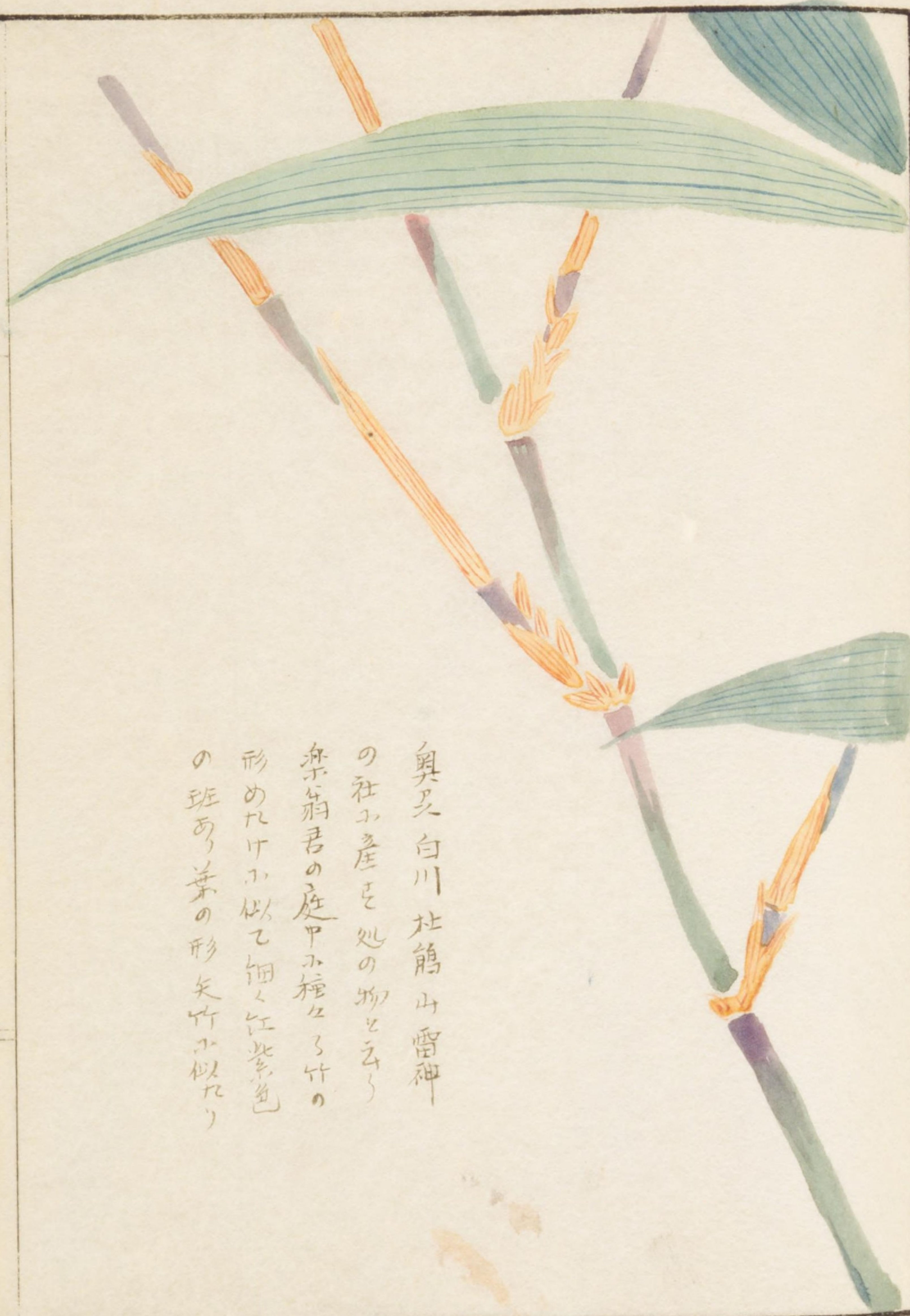
本草図譜 卷之九十九



一種 べつあしちく
あやふらんちく



本草図譜
卷之九十一



奥及白川社鶴山雷神
の社に産む所の物と云ふ
桑翁君の庭に種をく竹の
形に似て細く江紫色
の斑あり葉の形矢竹に似たり

一種

本草図譜
卷之九十一



本草図譜



竹の形やれけ小似て至て
細く下苗ありて節高く漸
く高さ三尺許り葉又
下苗至て小く根ハ浅
深く掘り捨か、し民
此竹の畑不入るを甚く愛
ふ

一種

ちぢくせい



本草図譜



一種

かんちく

人家多く栽之竹
と云は竹の形少し
似て細く節高く
間短く肉厚く長
さ七尺高至八九尺皮
落し易し葉赤色と云
ふ並葉の形若竹に似
て小く厚し



本草図譜
卷之六



本草図譜
卷之九
竹類



一種

べつかうりけ

志村竹園の載り
了殿及藤川水嶋郡
小庄に因九寸管厚も
へつかうの如き斑ありとす



龍
龍絲竹 解
龍須竹 上日
竹譜
詳録

高々一尺許り葉
至こかく細く葉
とふれかうりけ

本草図譜
卷之九
竹類
十四

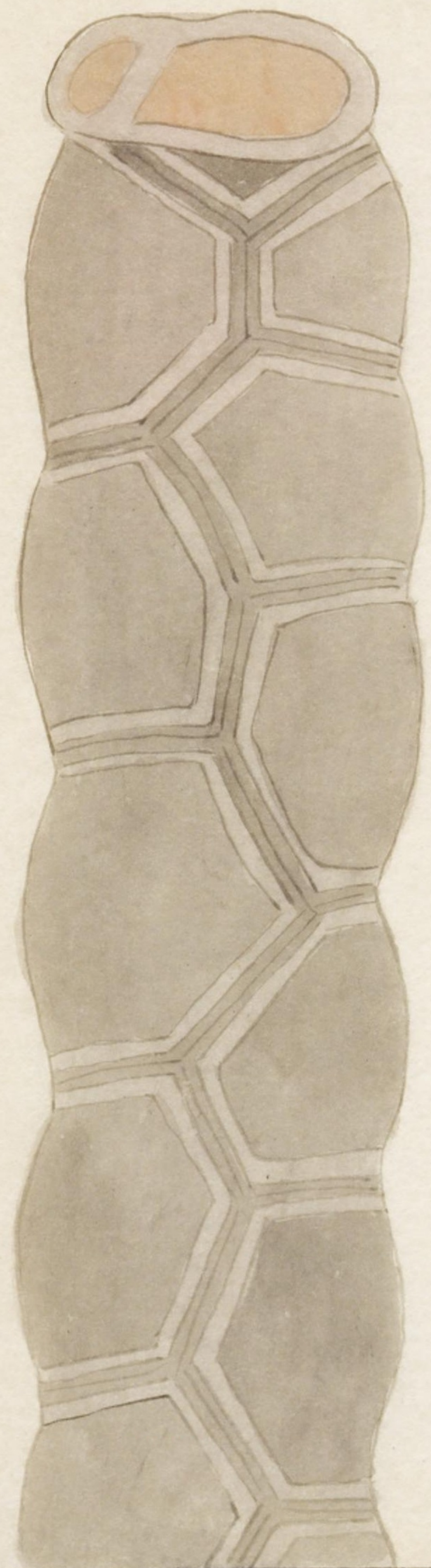


本草図譜 卷之九十一

本草図譜 卷之九十一

一種

亀文竹



同氏竹圍み載る処は琉球の産ふりと同一圍尺もこの節亀甲紋をあせり此佛白竹の類なり(奇品あり)



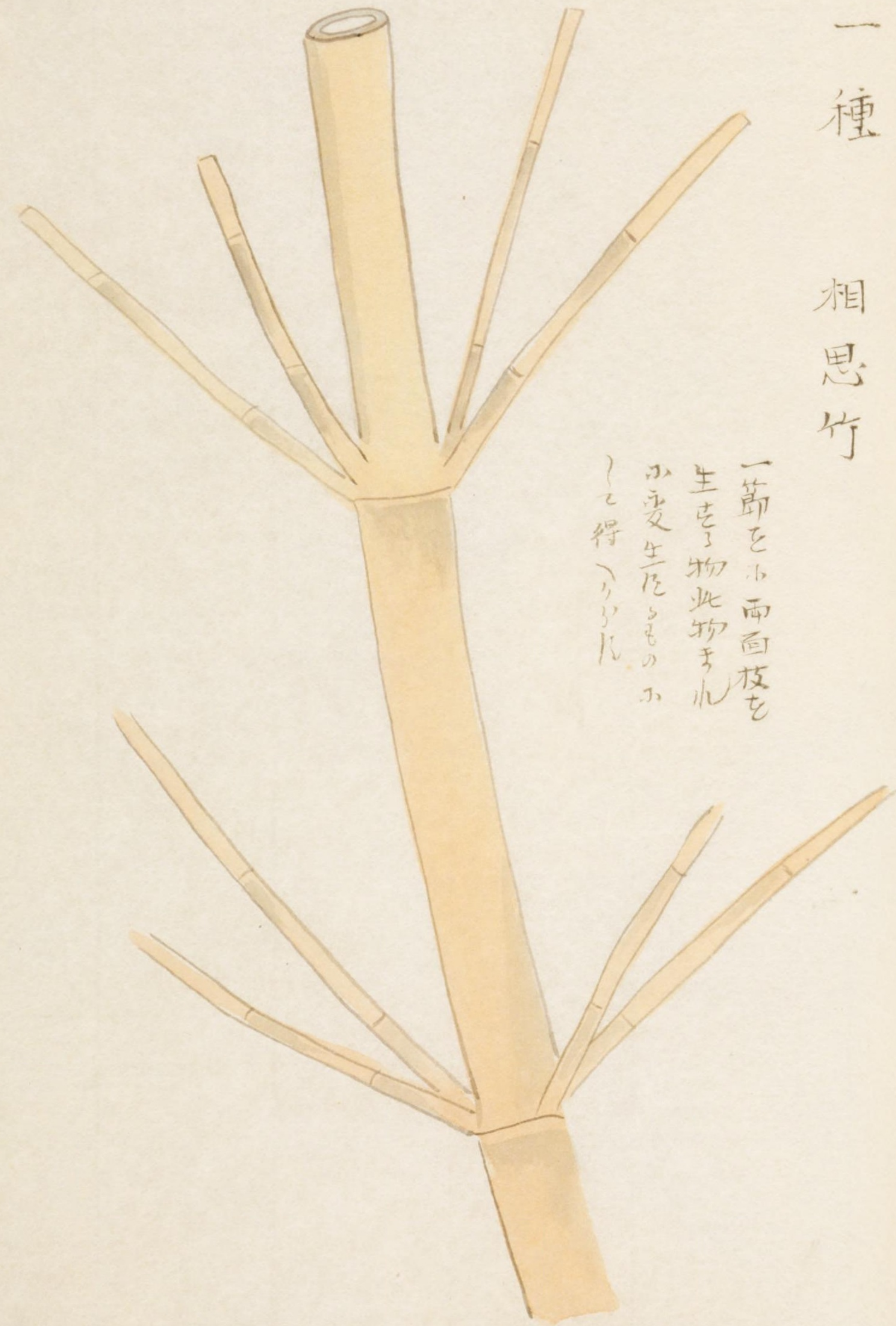
暴節竹 解集 竹節竹 上同
木槌竹 上同 鼓槌竹 上同
あぶらり 鶴膝竹 竹譜 詳録

和産す同氏竹圍み載る処は多紀産する所あり(産品あり)同一節甚高く鶴の膝の似たり(此名は)



本草図譜 卷之九十一

本草図譜 卷之九十一



一種 相思竹

一節を小而面枝を
生さす物此物より
小支生たすもの
と得たり



一種 螺文竹

同氏竹田小載ふ処竹の形
一幹盡く此形をふれり
は根上三尺の間にあり
偶の爰生ふりて得たり



本草図譜
卷之九
竹類



稷 桐竹
竹譜詳録

幹の稷枝の如くして至て細く甲
實の葉も又あるもの似て小く葉
の平小襦色の毛ある根より苗を生
一種高さ四五尺の至るものなり
ちちろちくと云 其の造り



稷竹 解集

ちちろ
ちく

本草図譜
卷之九



本草図譜

卷之九

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

鬼齒

れけの
うちぬ

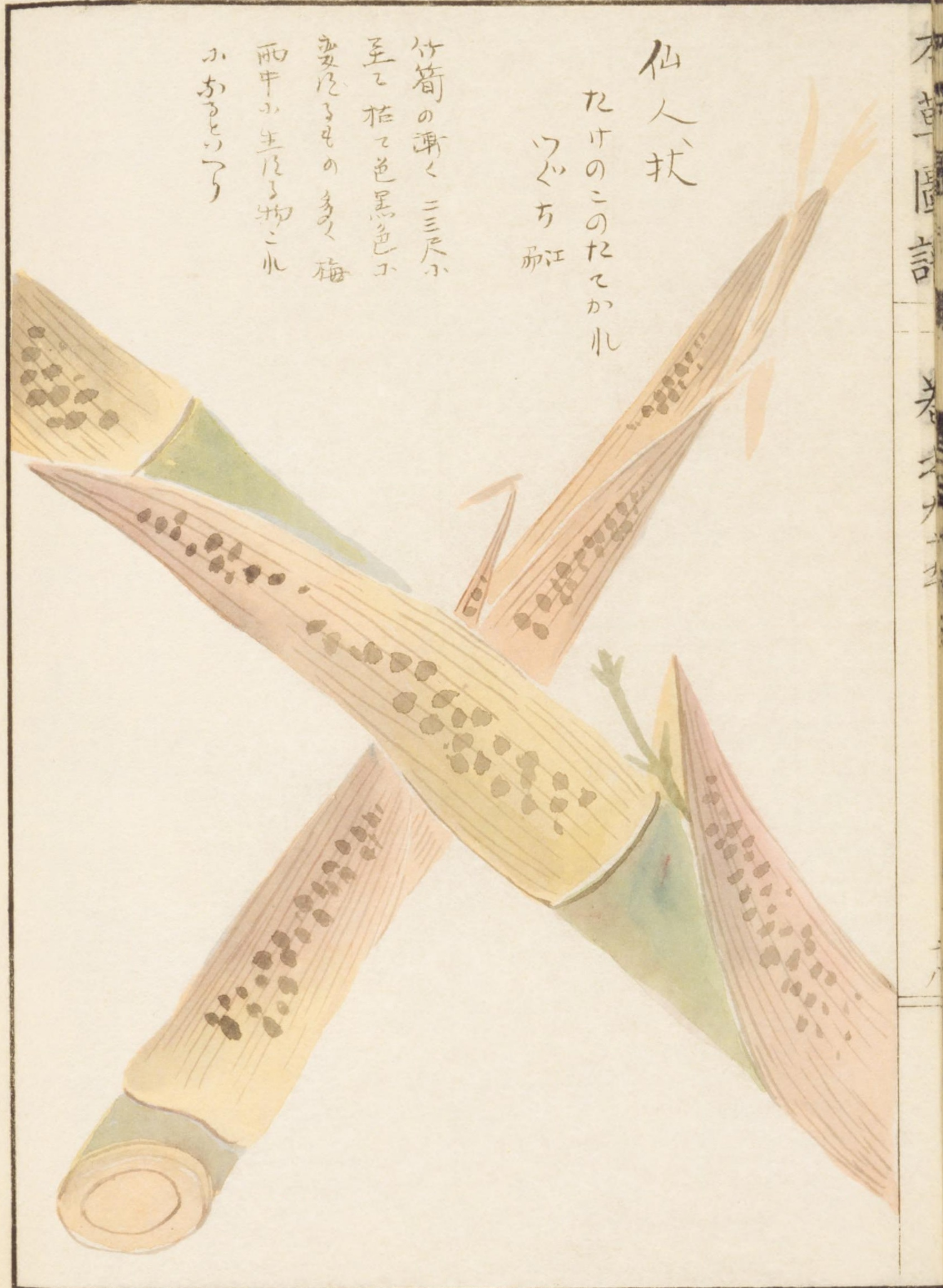


竹根上甲ありて
唐折たるとのこ

仙人杖

れけのこのたてか
れ
つらち
江

竹筒の漸く二三尺
至て括て色黒色不
変なるもの多く梅
雨中小生たつ物これ
小おもつて



本草図譜

卷之九

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹



本草図譜 卷之九



本草図譜 卷之九

一種

さくを

奥尾竹

竹譜 詳録

志村竹園が載る処飛而
丹布川の近辺に生ず細き幹
かゝる蘆葦に似て柔なり
折易く葉大なり葉右の葉
の如く葉の本より奥に似たり
竹に生る此物人環とて採り
諸外へ出せりと云り



本草図譜

卷之九十五

天竹黄

たけみろ

蘭山の説云、若竹淡竹皆云、初水之後漸く凝て粉とふる数品あり、塊を云、竹中小満
たこもり、碎く汁の如くあつちの細りて粉の如きも有り、白色、牙色、黒色、黒褐色。
尋常、牙色を微透ちるもの言ふ船乗り物小に疑物ありと云、宜く擇むと云、
宜く擇む用む。

雑木類

淮水

古城中の用い古く此の狂人

城東腐木

城の東の方にあつて腐敗朽の木、東に限る、東牆上の後あり、朝日不早くうく、
故に薬用とせしむ。

東家雞棲木

東の方にあつて雞のときり水、東家と稱する、八前条の意と云。

古厠水

せつせん不用ひ、此の古き水。

一厠葺録

附 器物類、本條あり。

古槻板

本草図譜
卷之九十五
天竹黄
雑木類
淮水
城東腐木
東家雞棲木
古厠水
一厠葺録
古槻板



本草図譜卷之九十四目錄

芭水類

竹	竹根	竹瀝	苦竹	一種	一種
たけ			上日 まねけ	ふたあし たけ	
一			三	七	七
竹葉	竹茹	淡竹解	一種	一種	斑竹
		もちく	か 〜 け		
			四	八	
			六		

右き棺の木をや桶等をえ古き物を用カ

震焼木

留の落て焼凡木をえ

河邊水

川の端はあすた

附録諸木ありとも詳ふくさうく記され

本草図譜 卷之九十四

